

平成二十八年年度大阪府・大阪市・堺市・豊能地区公立学校教員採用選考テスト

中学校 国語

(解答はすべて、解答用紙に楷書で記入すること)

一 次の文章を読んで、あとの(一)～(七)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：『近代読者論』外山滋比古／株式会社みすず書房
105ページ6行目から108ページ7行目まで

(外山滋比古 『近代読者論』より)

〔注〕

イメージ：イメージ、心象

リップ・ヴァン・ウィンタルの物語

：十九世紀前半のアメリカ合衆国の作家ワシントン・アーヴィングの作品集『スケッチ・ブック』の一編。主人公リップが狩りに出て山中で眠り、目覚めたら二十年経っていたという話。

テンス：時制

(一) — 線部①の対義語を漢字で答えよ。

(二) — 線部②、④、⑤、⑧のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方を示せ。

(三) ③ に最も適する言葉を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 二つ以上のことを順に表現すること

イ 複数のことを相対的に比較すること

ウ 多角的な視点から物事をとらえること

エ 同時に一つ以上のことを並記すること

(四) 空欄⑥に最も適する語を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア アプローチ イ サジエスト ウ リセット エ デイフォルメ

(五) — 線部⑦とあるが、筆者はどのようなことを奇異に感じているのか。本文中の言葉を使って、六十字以上七十五字以内で説明せよ。

(六) — 線部⑨とあるが、ここではどのような心理状態をさすか。簡潔に説明せよ。

(七) 本文の内容を踏まえ、観念の世界について次のようにまとめた。空欄 a ～ e に入る適切な言葉をそれぞれ本文中から抜き出し、答えよ。

観念の世界は超時間的である。読者は作者の書いた文章を読み、その (a) から、時間的順序を視覚的に (b) し、実感することになる。そして、すぐに過去の同種の情報と (c) し、作者の書いた文章の内容を解釈、理解する。つまり、(d) が視覚的な (b) を修正することで、読者の解釈が成り立つのである。そのことによって生まれた時間は、読者が作者の書いた文章を読んだ後、再び (e) となり、また超時間的になるのである。

二

次の文章を読んで、あとの(一)～(八)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：『おくのほそ道行』森本哲郎／株式会社平凡社
10ページ2行目から11ページ25行目まで

(森本哲郎 『おくのほそ道行』より)

〔注〕 漂泊 …… 漂泊に同じ。

白川の関 …… 白河の関に同じ。古代の奥州三関の一つ。

- (一) ——— 線部①を言い換えている表現を、本文中より一語で抜き出し答えよ。
- (二) ——— 線部②、③、⑦、⑨のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方を示せ。
- (三) 空欄④、⑤、⑥に最も適する語を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。ただし、それぞれの記号の使用は一回のみとする。
- ア すなわち イ そして ウ たしかに エ けれども オ また
- (四) ——— 線部⑧の本文中での意味として適するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。
- ア 案内者がいなくて困ることもない イ 案内者に関して何も不満な点はない
- ウ 案内者に対しても礼節を失わない エ 案内者にも迷惑を掛けることはない
- (五) ——— 線部⑩とあるが、ここでの幻想とはどのようなものであると筆者は述べているか。本文中の言葉を使って三十～四十字で説明せよ。
- (六) 「」⑪～⑬に最も適する漢字の組み合わせを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。
- ア ⑪路・⑫径・⑬途 イ ⑪途・⑫径・⑬路
- ウ ⑪途・⑫路・⑬径 エ ⑪径・⑫路・⑬途
- (七) ——— 線部⑭について「先人の踏みかためた道」とあるが、これは芭蕉にとって具体的にはどのようなことなのか。本文中より二十～二十五字で抜き出し、最初と最後の五字ずつを答えよ。
- (八) 本文中で筆者は、芭蕉にとっての理想的な旅とはどのようなものであったと述べているか。本文全体をよく読んで、五十五字～七十字程度で的確に説明せよ。

三 次の文章を読んで、あとの(一)～(八)の問いに答えよ。なお、設問の都合上、「」を省略している。

雪のうちに春はきにけりうぐひすのこほれる涙いまよとくらむ……………A

〔古今 春上 四 二条后高子、六帖 六 四四〇五〕

この歌に、雪のうちに春来といへる事、おぼつかなし。また、鶯の鳴かむには、涙やはあるべきと、うたがはれしを、^①人の申ししは、雪のうちに春はきにけりとは、年のうちにといへるなり。雪は春降る物なれど、むねとは、冬ある物なれば、冬といはむとて、雪といふなり。ふる年に、春^aのちける年、詠める歌なり。年のうちに春はきにけりといはば、こそとやいはむといへる歌に似たれば、^②あれにたがへむとて、めづらしく、雪のうちにとは、^③詠ませ給ひけるにや。鶯の涙はなけれども、なくといへることばにひかれて、詠むなり。雁の涙や野べを染むらむといふも、涙やはあるべき。されど、なくといふにつけて、涙と詠まむに、咎なし。しかはあれど、鶯の鳴くは、囀づるなり。なくにはあらず。たとひ、涙ありとも、いづくにとまりて、冬は凍りて、春、東の風にあたりて、解くべきぞと。歌にはそら事を詠む、常のことなれど、これは、さもあげにて、おほへぬそら事どもなれば、あやしともいひつべけれど、歌がらの^④めでたければ、^⑤古今に入りて、おそろしきなり。また、この歌は、古今に入らば、春のはじめにぞ入るべき。おくにある、うたがひある事なり。なほ、沙汰のこりたる歌なり。

山たかみ人もすさめぬさくら花^⑥ いたくなわびそ我みはやさむ……………B

〔古今 春上 五〇〕

この歌の心は、我を人見ずとて、花^bのわびたる様に詠めり。人なりとも、さやはあるべき。まして、心もなからむ花の、人見ずとてわびむも、^⑦あいなくこそ聞ゆれ。されど、これこそ、心なき物に、心をつけ、物いはぬ物に、ものをいはするは、歌の常のならひなれば、風、花^cのあたりをよきて吹けなどいひ、やよや待て山ほととぎすことづつてむなどいふは、まさに、聞くべき事かは。されど、歌のならひなれば、これらにて、心を得るに、などてか、花も、人見ずとて恨みざらむ。

〔俊頼髓脳〕より〕

〔注〕 年のうちに春はきにけり…陰暦で、新年を迎えないうちに立春になること。

(一) A・Bの和歌に共通する表現を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 係り結び イ 体言止め ウ 掛詞 エ 擬人法

(二) 線部①とあるが、この「人」が話した内容は、——線部①直後の「雪のうちに」からどの部分までか。終わりの五文字を本文中から抜き出せ。

(三) 線部②がさす内容を本文中から十～十五字で抜き出せ。

(四) 線部③中の「せ」、「に」について、解答欄の空欄に適切な語を記入し、文法的に説明せよ。

(五) 線部④、⑥、⑦を口語訳せよ。

(六) 線部⑤は、『古今和歌集』のことであるが、『古今和歌集』の撰者であり、『土佐日記』の作者でもある人物名を答えよ。

- (七) 〓線部 a、c のうち、文法的な意味が異なるものを一つ選び、記号で答えよ。
- (八) 本文全体に表れている筆者の考え方について、和歌を詠む技法に触れながら七十字程度で説明せよ。

四 次の文章は、儒学者である王陽明の弟子たちが師の手紙や言行などをまとめた『伝習録』の中で、弟子の一人が王陽明に読書について質問をした一節である。この文章を読んで、あとの(一)～(七)の問いに答えよ。

問、^①看書不能明。如何。先生曰、此只是在^②文義上^③穿求。故不^④明。如此、又不^⑤如^⑥爲^⑦三^⑧舊時^⑨學問。他到^⑩看^⑪得多、解^⑫得去。只是他爲^⑬學、雖^⑭極^⑮解^⑯得^⑰明^⑱曉、亦終身無^⑲得。須^⑳於^㉑心^㉒體^㉓上^㉔用^㉕功。凡^㉖明^㉗不^㉘得、行^㉙不^㉚去、須^㉛反^㉜在^㉝自^㉞心^㉟上^㊱體^㊲當、即^㊳可^㊴通。蓋^㊵四^㊶書^㊷五^㊸經、不^㊹過^㊺說^㊻這^㊼心^㊽體^㊾。這^㊿心[㋀]體[㋁]即[㋂]所[㋃]謂[㋄]道[㋅]心[㋆]。體[㋇]明[㋈]即[㋉]是[㋊]道[㋋]明。更[㋌]無[㋍]二[㋎]。此[㋏]是[㋐]爲[㋑]學[㋒]頭[㋓]腦[㋔]處[㋕]。

(『伝習録』より)

(一) 線部A、B、Cについて、その読みをひらがなで書け。送りがなが必要ならばカタカナで付記すること。現代仮名遣いで表記すること。

(二) 線部①について、あとの問いに答えよ。

- 1 線部①の意味として適するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。
 - ア 書物を読んでも、よく理解できない。どうすればよいのか。
 - イ 書物を読むと、世の中を明るくできるのか。できないのか。
 - ウ 書物を読んでも、よく理解できないのは、自明の事なのか。そうではないのか。
 - エ 書物を読むにも、部屋を明るくできない。これはどうしようもないのか。

2 線部①の「看書不能明。」に返り点を打て。

(三) 線部②を口語訳せよ。

(四) 線部③について、あとの問いに答えよ。

- 1 書き下し文に改めよ。
- 2 線部③中の「心體」は、本文中では「心の本体」という意味で使われている。この「心體」と対照的な意味で使われている二字の語句を本文中から抜き出せ。

(五) 線部④の「頭腦」は、本文中ではどのような意味で使われているか。五字程度で記せ。

(六) 本文中に表われている王陽明の読書に対する考えを、七十五字以上九十字以内で記せ。

(七) 本文中の「四書五經」は、儒教の経書の中で重要とされる九つの書物の総称である。次のア～オから、「四書」に含まれるものを、二つ選び記号で答えよ。

- ア 莊子
- イ 論語
- ウ 春秋
- エ 孟子
- オ 詩經

五

次の(一)～(四)の問いに答えよ。

- (一) 次の①～③の——線をひいた漢字の読み方を示せ。
 ① 意匠 ② 勾配 ③ 諮る

(二) 次の1、2の冒頭文は、明治以降に活躍した作者の作品である。あとのア～オの中から作品名を、A～Eの中から作者名をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

1 道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。

2 石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静にて、熾熱燈の光の晴れがましきも徒なり。

【作品名】

ア 草枕 イ 山月記 ウ 暗夜行路 エ 舞姫 オ 伊豆の踊子

【作者名】

A 森鷗外 B 志賀直哉 C 夏目漱石 D 川端康成 E 中島敦

(三) 次の文章は太宰治の「走れメロス」の一部である。次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

メロスはその夜、一睡もせず十里の路を急ぎに急いで、村へ到着したのは、翌^{あぐ}る日の午前、陽は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事を はじめていた。メロスの十六の妹も、きょうは兄の代りに羊群の番をしていた。よろめいて歩いて 来る兄の、疲労困憊^{こんぱい}の姿を見つけて驚いた。そうして、うるさく兄に質問を浴びせた。

「なんでも無い。」メロスは無理に笑おうと努めた。「市に用事を残して来た。また、すぐ市に行かなければならぬ。あす、おまえの結婚式を挙げる。早いほうがよからう。」

(太宰治 『太宰治全集3』より)

1 ——線部①～③の動詞について、次のア～オの中から活用の種類を、あとのA～Fの中から活用形をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

【活用の種類】

ア 五段活用 イ 上一段活用 ウ 下一段活用 エ カ行変格活用
 オ サ行変格活用

【活用形】

A 未然形 B 連用形 C 終止形 D 連体形
 E 仮定形 F 命令形

2 ——線部④「すぐ」の品詞名を漢字で答えよ。

(四) 次の1、2の問いに答えよ。

1 次の①～③の修辭法を用いている和歌をA～Eからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① 枕詞 ② 体言止め ③ 縁語

【和歌】

- ア 心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花
イ 久方の光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ
ウ 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする

【作者】

- A 小野小町 B 凡河内躬恒 C 紀友則 D 大伴家持 E 式子内親王

2 1のA～ウの和歌は『小倉百人一首』に収められている和歌である。『小倉百人一首』の撰者であるといわれ、また『新古今和歌集』の撰者の一人でもある歌人の名前を答えよ。

六

次の資料は中学校学習指導要領（平成20年3月告示）の「国語」第2学年に示されている「第2各学年の目標及び内容」と「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の抜粋である。その内容に準拠して、第2学年において書写の授業を行う。学習指導要領と、示された学習指導案作成用メモについて、あとの(一)～(六)の問いに答えよ。

【資料】

第2 各学年の目標及び内容

2 内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

- ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。
- イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の各学年の内容の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、次のとおり取り扱うものとする。

(2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(2)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

- ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や(①)に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、(②)を使用する書写の指導は(③)による書写の能力の基礎を養うようにすること。
- ウ 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間(④)単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。

【学習指導案作成メモ】

単元名

「良いところを伝えよう」
学習したことを生かして、友達の良いところを漢字一文字で表し、行書で書こう。またその理由を添えてみよう。

単元の目標

- ・ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書く。
 - ・ 作品を見る人を意識し、文字の大きさや配列を工夫して書こうとする。
- 〈国語への関心・意欲・態度〉

題材等

行書についての教科書の説明文、作品例など。八つ切り画用紙を使用。

単元の評価規準

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書いている。

国語への関心・意欲・態度

作品を見る人を意識し、表現効果や伝達効果を高めるために、文字の大きさや配列を工夫して書こうとしている。

指導の計画(学習の計画)

・ 主な学習活動と評価(全三次)

第一次 行書の特徴をおさえる。

第二次 紹介する人を決め、ふさわしい漢字を考える。文字の大きさや配列を考える。

第三次 表現効果や伝達効果を高めるために、毛筆や硬筆などの筆記具を工夫し、行書の特徴を生かして、八つ切り画用紙に書く。

〈国語への関心・意欲・態度〉、

単元について

教材観、生徒観、指導観 《省略》

本時案

《省略》

【問2】

(一) 資料の「2 内容(2)」の具体的な指導について述べた次の文のうち、正しいものを二つ選び記号で答えよ。

- ア 第2学年においては、行書の基礎的な学習をしている。
- イ 毛筆の弾力性や柔軟性という特質を生かして運筆を体得させることなどの工夫が必要である。
- ウ ノートやポスター、はがきといった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体を選び毛筆で書くことから指導する。
- エ 行書に慣れさせることは、話す、聞く、書く、読むといった言語活動の中の、書く活動に役立てることができる。
- オ 行書に関して気が付いたことや分かったことなどについて考えたり、まとめたりする活動を取り入れることが大切である。

(二) 資料の空欄①～③に入る言葉を、漢字二字で答えよ。

- (三) 資料の空欄④に入る数字をア～オから一つ選び、記号で答えよ。
- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ア | 10 | イ | 15 | ウ | 20 | エ | 25 | オ | 30 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

(四) 学習指導案作成メモの空欄⑤に入る評価の観点を答えよ。

(五) 線部⑥「行書の特徴をおさえる」際に注意することを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 点画は一つ一つはっきり独立させ、方形で書くよう指導する。
- イ 点画を続け、形に丸みが多く、流動感のある運筆を意識させる。
- ウ 逆筆を取り入れ、横画の終筆を波形に跳ね上げることを意識させる。
- エ 長短、細太、大小、曲直が全く自由で、点画の省略が激しく、筆順も独特のものとなるため、文字ごとの形を覚えさせる。

(六) 次のA～Eは、同じ漢字の五書体を表したものである。それぞれの書体名をあとのア～オから一つ選び、記号で答えよ。



- ア 草書 イ 行書 ウ 隷書 エ 楷書 オ 篆書